商店街の開き方

～家族で集う街のストリート～

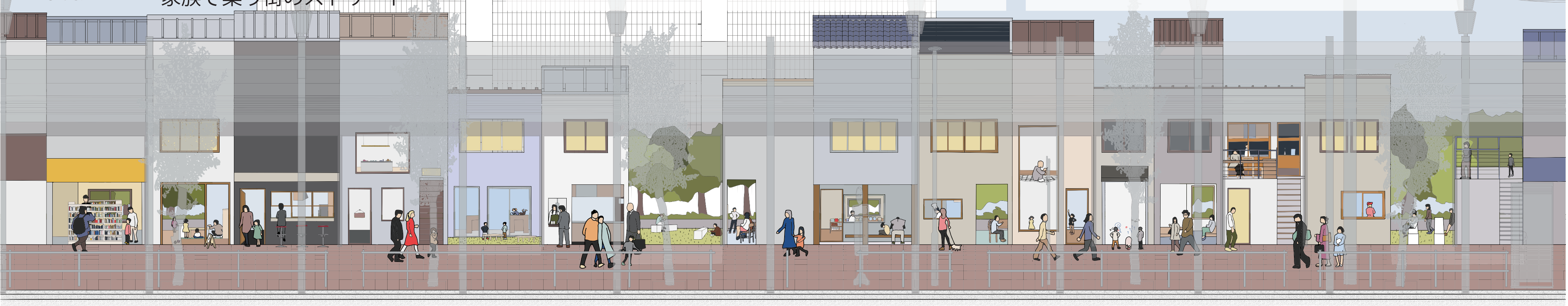
19

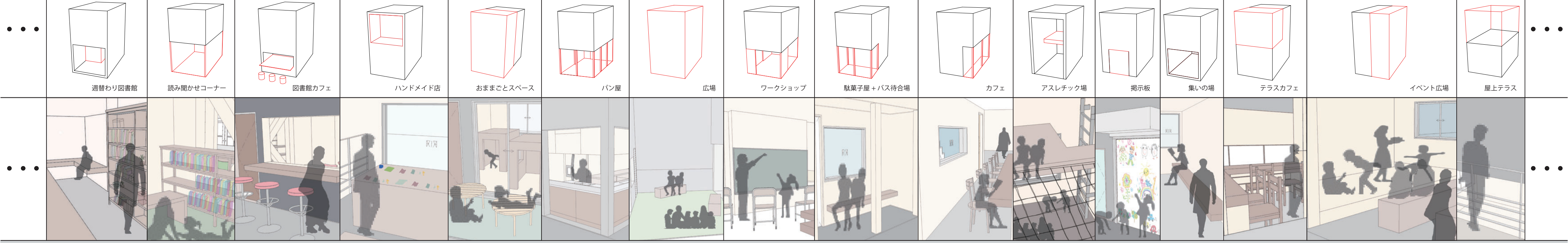
背景

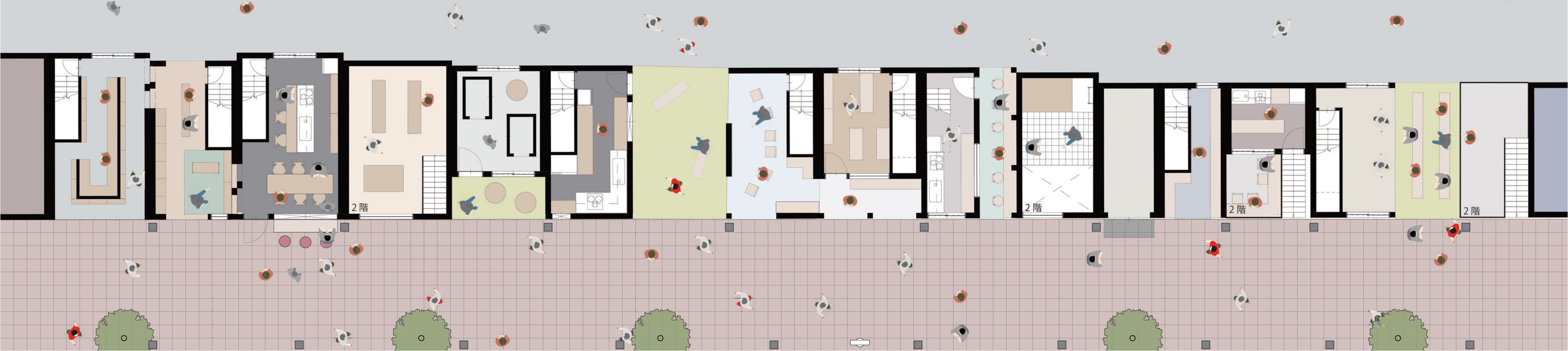
街の中心で長年賑わっていた商店街は、今やほとんどがシャッター街化し元気を失った。一方で商店街を開くことは、地域コミュニティを活性化させるだけでなく、街の魅力発信につながり、外部からも人を集められるのではないか。そこで、商店街での新たな店の開き方を提案する。賑わいは外にまで溢れ出し、人々は外で歩いて巡る楽しさに気づく。

対象

敷地は、熱田神宮前商店街とする。熱田神宮は名古屋で一番の観光スポットであり、年間 700 万人程が訪れる。来訪者は高齢者に次いで特に 30 代が多く、初宮参りや七五三などの行事が目的であると予想される。商店街は熱田神宮を訪れた家族連れをターゲットとし、また来たいと思える居場所となる。





挿入型	棚や東屋のような家具・小屋を挿入する。用途の転換が簡単に行える。	週替わり図書館	裏側に建つ熱田図書館の本の一部をここに出し、より多くの人に本に触れてもらう。
通り抜け型	前後の壁を抜くことで、裏側と繋がりをもてる。また、風が抜けて心地よい。	読み聞かせコーナー	図書館での読み聞かせイベントをここで開催することで、子どもたちは本に興味を持つ。
窓カウンター型	窓にカウンターを設けることで、店の中にとどまらず、外に活動が溢れる。	図書館カフェ	図書館の本をカフェでゆっくり読むことができる。大人はここで穏やかなひと時を過ごす。
2 階利用型	1 階には階段だけが設置してあり、先の見えないワクワク感が 2 階まで導く。	ハンドメイド店	学校で使える小物やバッグを販売するハンドメイド店。
手前解体型	建物の手前部分を解体する。内外空間の繋がりを生む。	おままごとスペース	子どもの大好きなおままごとができるスペース。
窓ガラス張り型	面をガラス張りにし、中の活動が外から見られる。	パン屋	ガラス越しに調理の様子が見れる。
空き地型	建物を全て解体する。広場やテラス席にするなど、自由に使える。	広場	パン屋でテイクアウトしたものを食べたり、ワークショップの活動がこの広場に広がる。
1 階壁抜き型	壁の一部を抜く。隣接する店と空間を共有し、繋がりをもてる。	ワークショップ	お守りづくりなど様々な体験ができる。
手前ピロティ型	手前は柱のみを残しピロティとなる。半屋外空間が生まれ、外と繋がる。	駄菓子屋＋バス待合場	目の前にあるバス停の待合場となる。奥には駄菓子屋があり多くの子供が集まる。
通り土間型	内部に通り土間を設ける。視線の抜けをつくり、動線となる。	カフェ	奥に風が抜け心地よい空間となる。アスレチックで遊ぶ子供の親が一息付ける場となる。
一部吹抜け型	吹抜けで開放感のある空間となり、上下階で繋がりを生む。	アスレチック場	吹き抜けの一部にネットをはり、大空間で子供たちがはしゃぐ。
シャッター型	シャッターにホワイトボードシートを貼る。	掲示板	子供たちはホワイトボードシートに自由にお絵かきする。
開放型	前面の壁を抜き、開放する。くつろぎの場となる。	集いの場	休息のため立ち寄り集まった人たちで会話が生まれる。
2 階一部解体型	2 階の一部を解体し、テラスができる。内外空間が繋がる。	テラスカフェ	景色を見ながらカフェでのんびり過ごす。
横解体型	建物の横部分を解体する。内外空間の繋がりを生む。隣接する店と空間を共有できる。	イベント広場	商店街を盛り上げる熱田に住む子供たちが舞台に立つ。
2 階解体型	2 階部分を解体する。テラスとなり、イベントを観覧する。	屋上テラス	テラス席からイベント広場を観覧する。